

はじめに

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（以下 CoREF）は、大小さまざまな市町教育委員会及び学校等と「新しい学びプロジェクト」、埼玉県教育委員会と「未来を拓く『学び』プロジェクト」という協調学習を引き起こす授業づくりのための研究連携事業を行っている。平成 22 年度から始まったこれらの研究連携は、はや 6 年目を迎えた。また、連携の成果を活かした、自治体の研修事業における協調学習を核とした研修プログラムの開発、実施も今年度で 4 年目となる。

いずれの事業でも私たちは現場の先生方と連携して、「人はいかに学ぶものか」について今研究分野でわかってきていることを基盤に、教室で行われている授業の質を上げ、子どもたちが自分たちで考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出し、いける新しい学びのゴールを追求してきた。また、一連の事業を通じて私たちは、私たち研究者、教員、そして様々な分野の社会人専門家のコミュニティが緩やかに重なりながら、こうした新しい学びのゴールに向けて、それぞれの専門性を活かし、教室の事実学びながら継続的に授業の質を上げるためのネットワークを構築することを目指している。

本報告書の作成並びにその基本となった事業においては、「新しい学びプロジェクト研究協議会」参加の 13 道県 21 団体、埼玉県教育委員会、千葉県柏市教育委員会をはじめとする関係教育委員会、学校のみならず、日本産学フォーラム、日本技術士会統括本部登録団体「わくわく理科教育の会」をはじめとする社会人専門家のみなさまに多大なご支援、ご協力をいただいた。この場を借りて感謝を表したい。

本報告書は、全部で 2 部・8 章から構成される。第 1 部では、平成 27 年度の私たちの研究連携の活動報告を行っている。第 2 部では、この 6 年間の研究連携から私たちやともに研究してくださっている実践者の先生方に見えてきた、知識構成型ジグソー法を用いて協調学習を引き起こす授業づくりに関する知見をハンドブックの形でまとめている。

第 1 部「平成 27 年度の活動報告」の概要は以下の通りである。

第 1 章では、CoREF と自治体及び学校等との研究連携の基本的な枠組みと今年度の各事業における取組の概要を紹介する。第 2 節、第 3 節では中心的研究連携事業である「新しい学びプロジェクト」、「未来を拓く『学び』プロジェクト」について、今年度の活動報告を行う。第 4 節では、研究連携を支える核となる先生方の学びの場として昨年度から開始した「本郷学習科学セミナー」について報告する。第 5 節では、研究連携の今後の発展に向けて、CoREF が産官学と連携しながら試みている事業のいくつかを紹介する。

第 2 章「研修のデザインとパッケージ」では、CoREF による協調学習の授業づくりに関する研修のデザイン方針と具体例を示す。CoREF の研修は、「知識構成型ジグソー法」という 1 つの「型」を使って子ども一人ひとりの学びの力を活かす授業づくりを主題と

しているが、対象や目的、使える時間に応じて多様なパッケージを提供している。第1節では研修の基本的な指針を説明する。第2節、第3節では、専門研修と年次研修の例を取り上げ、研修の具体像を示す。第4節では平成27年度に行った研修の全体像を振り返る。

第3章「リファレンスガイド」では、研究連携事業に関する参考文献や研究背景を整理する。第1節ではこれまでの5冊の報告書の収録内容、第2節では関連する書籍等をそれぞれご紹介している。また第3節では、故三宅なほみ先生の研究史をたどりながら、CoREFの取組や背景を見直している。

第2部「協調学習 授業デザインハンドブック」の概要は以下の通りであり、第1章、第2章、第4章は平成26年度活動報告書からの再録である。

第1章「授業づくり導入編」では、第1節に「背景となる考え方」として、私たちが研修の導入で使用しているスライド解説を収録し、第2節では「授業づくりのポイント」として、目指す学習の原理に基づく、あるいは5年間の研究連携から経験的に見えてきた「知識構成型ジグソー法」を用いて協調学習を引き起こす授業をデザインする際のポイントをQ&A形式で整理した。第3節「新しい学びのゴールと評価」は、目指す学びのゴールの変化に伴う新しい学習評価の考え方を解説した。

第2章「CoREFによる授業実践の分析」は、小中高さまざまな教科を題材に、知識構成型ジグソー法を用いた授業でどのような学習が起こっているのか、またそうした学習の成果を私たちはどのように見取り評価するのか、の一例を示した。

第3章「教科部会での研究から見えてきたこと」では、今年度「新しい学びプロジェクト」及び「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究推進員・開発員の先生方がまとめてくださった各教科部会の研究成果と課題のまとめ、現時点で見えてきていることを収録した。

第4章「実践者の体験談」は、協調学習の授業づくりに継続的に取り組んでくださっている先生方がこの授業をどのように捉え、そこから何を学ばれているのかの体験談である。

第5章「データ編」は、6年間の研究連携の成果を集めたデータ集である。データは実際にご活用いただける形で付属のDVDに収録されている。DVDには、「開発教材」として、小中学校319、高等学校766の教材について、授業案や教材、実践者の振り返りコメント、児童生徒の記述例（一部教材のみ）が収められている。また、「実践動画」として、これらの教材の一部を用いた授業風景の動画も収録している。あわせて、「参考資料」として私たちが研修等で行っているスライドを用いたレクチャーや過去の年次報告書の電子データ、「新しい学びプロジェクト」の先生方による協調学習Q&Aも収録している。

去る平成27年5月29日、6年間の取組を主導してきた三宅なほみ先生が逝去された。7月に開催された「お別れの会」には、日本全国から450人以上の方々足をはこんでくださり、先生との別れを惜しんでくださった。以後今日まで、多くの方々のあたたかい助力と励ましのおかげで、今年度も取組を前に進め、報告書を刊行することができた。ここに深くお礼を申し上げたい。

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構